

2025年3月期第2四半期決算補足説明資料

2024年11月8日

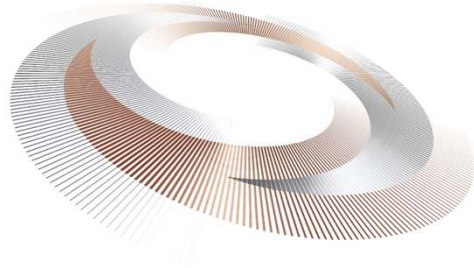


執行役常務の高柳でございます。

本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、2025年3月期 第2四半期決算概要及び2025年3月期通期業績見通しについてご説明いたします。

まずは、決算補足説明資料の4ページ、エグゼクティブサマリをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

目次

1. エグゼクティブサマリ	P.4
2. 損益推移の状況（四半期）	P.5
3. 25年3月期上期実績	P.6
4. 連結貸借対照表	P.8
5. 25年3月期通期業績予想	P.9
6. セグメント概況	P.10
7. UBE三菱セメント社概況	P.14
8. キャッシュフロー・ネットDEレシオ	P.15
9. 参考情報	P.16

エグゼクティブサマリ

景況感	<ul style="list-style-type: none">● 自動車市場は、世界の販売台数は欧米を中心に低調に推移している。下期は緩やかな需要回復が予想される。● 半導体市場は、生成AI関連など先端分野は引き続き好調、全体では緩やかな回復傾向である。川上に位置する半導体材料メーカーの需要回復は来期となる見込み。
上期実績 (対前年同期比)	<p>上期実績は、対前年同期比で増収・増益。</p> <ul style="list-style-type: none">● 売上高は、銅価格の上昇や為替の円安などにより増収（7,161億円→9,895億円、対前年同期比+38%）。● 営業利益は、2Qでの金属事業における実収効率の改善や為替の円安などにより増益（119億円→275億円、対前年同期比+131%）。● 経常利益は、営業利益の増益に加えて、持分法投資利益が増加したことなどにより増益（184億円→249億円、対前年同期比+35%）。● 純利益は、1Qに計上したPT. Smelting（インドネシア）の持分法適用関連会社化に伴う持分変動利益などにより増益（111億円→246億円、対前年同期比+122%）。
通期予想	<p>上期実績及び下期の需給の動向、金属事業での実収効率改善などを考慮し、セグメント別の見直しは見直しているが、通期の連結業績予想・配当予想に変更なし。</p> <ul style="list-style-type: none">● 下期の自動車市場・半導体市場の需要回復は、当初想定に比べ緩やかとなることが予想され、当社の伸銅品、超硬製品は下期も低調に推移する見込み。● 為替は、今後の不透明感は強いが、足元水準で推移すると想定。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

4

まず、自動車、半導体市場の景況感です。

自動車市場は、第1四半期に引き続き需要は低調に推移しております。下期は緩やかに回復してくることが予想されます。

半導体市場においても、生成AI関連などの先端分野は引き続き好調ですが、全体では、緩やかな回復傾向にあります。

川上に位置する半導体素材メーカーの需要回復は来期となると見込んでいます。

次に、上期の実績ですが、対前年比では増収、増益となっております。

売上高は、銅価格の上昇や、前年同期に比べ為替水準が円安であったことなどにより増収となりました。

営業利益は、為替水準が円安であったことに加え、金属事業での実収効率改善などにより増益となりました。経常利益は、持分法投資利益の増加などにより増益となりました。

しかしながら、第2四半期末にかけて為替水準が円高に転じたため、外貨建債権債務に係る為替差損の計上により増益幅は縮小しています。

純利益は、第1四半期に計上したPT. Smelting社の持分法適用関連会社化に伴う、持分変動利益などにより増益となりました。

通期予想については、上期の実績及び今後の需給動向などを考慮した結果、通期の連結業績予想・配当予想は5月の公表値から変更はありません。

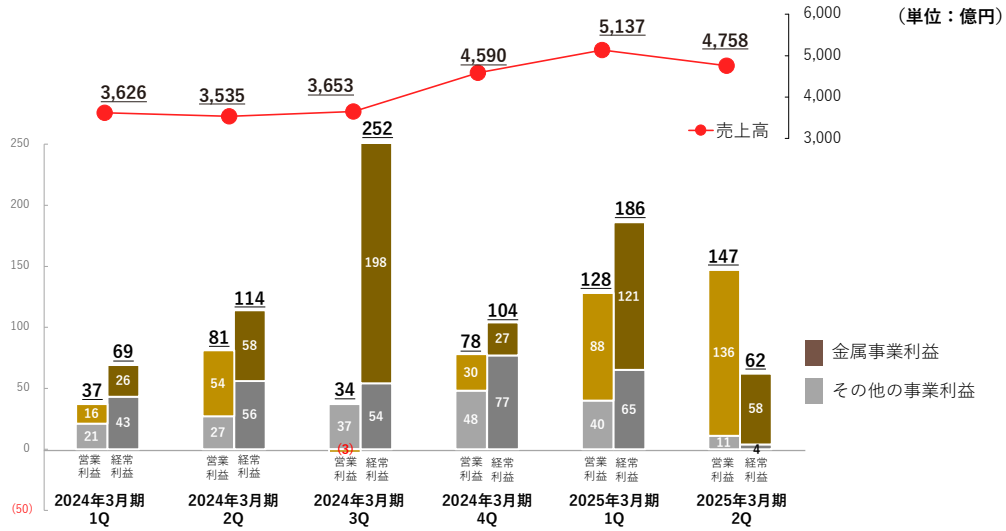
一方で、自動車市場、半導体市場の需要回復は当初想定よりも緩やかであり、高機能製品及び加工事業では下期も低調に推移する一方、金属事業では実収効率の改善がみられるため、セグメント別の見直しは若干修正をしております。

今回見直したセグメント別の業績予想はご参考情報として資料の末尾に添付しております。

続いて、5ページ、四半期推移をご覧ください。

損益推移の状況（四半期）

- 売上高は、為替が円高に推移したことなどにより前四半期比△378億円の4,758億円。
- 営業利益は、実収効率の改善などにより金属事業利益が増加し前四半期比+19億円の147億円。
- 経常利益は、金銭債権債務に係る為替差損の計上などにより前四半期比△123億円の62億円。



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

5

こちらは四半期毎の損益の推移です。第2四半期の売上高は、為替が円高に推移していたことなどにより、前四半期比378億円減収の4,758億円となりました。

営業利益は、為替が円高に推移したことで、ヘッジ停止による為替・価格変動差では減益要因となったものの、金属事業の実収効率改善などにより、前四半期比19億円増益の147億円となりました。

一方、経常利益は、持分法投資損益の悪化に加え、為替が円高に推移したことによる金銭債権債務に係る為替差損の計上などにより、前四半期比123億円減益の62億円となりました。

続いて6ページをご説明いたします。

25年3月期上期実績（連結損益計算書）

（単位：億円）

項目	24年3月期 上期実績(a)	25年3月期 上期実績(b)	増減(b-a)
売上高	7,161	9,895	+2,733
営業利益	119	275	+156
受取配当金	11	11	+0
持分法損益	45	76	+31
経常利益	184	249	+64
特別損益	△0	71	+72
親会社株主に帰属する 中間純利益	111	246	+135
ドル為替 (円/\$)	141	153	+12
ユーロ為替 (円/€)	153	166	+13
銅価格 (¢/lb)	382	430	+48
金価格 (\$/oz)	1,954	2,407	+453
パラジウム価格 (\$/oz)	1,350	971	△379

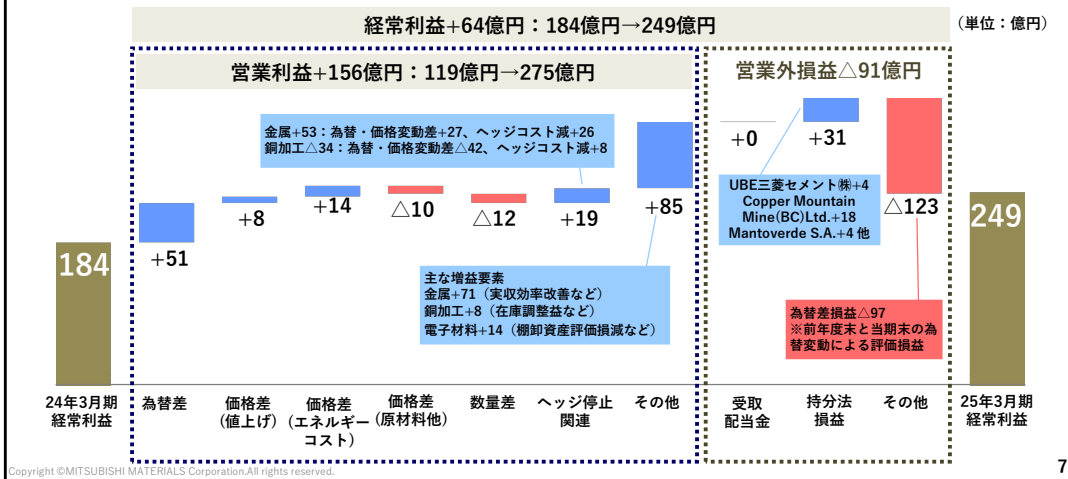
Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

6

こちらは、上期6か月間の実績を示しています。
営業利益、経常利益の詳細は7ページの滝グラフをご覧ください。

25年3月期上期実績（経常損益要因内訳）

- 営業利益は、銅加工事業、加工事業の販売は減少。円安による為替差、為替・価格変動差、実収効率の改善などにより275億円（前年度実績+156億円の増益）となった。
- 経常利益は、2Qでの急激な為替の円高により金銭債権債務に係る為替差損の計上があった。営業利益の増加、持分法投資損益の増加などにより249億円（前年度実績+64億円の増益）となった。
- ヘッジ停止により、上期では営業利益+19億円（為替・価格変動差△15億円、ヘッジコスト減少+34億円）、営業外損益△19億円となり、ヘッジ停止による影響は上期全体では±0億円となった。
※1Qは為替・価格変動差+75億円、ヘッジコスト減少+17億円であった。



こちらは、上期実績の経常利益を昨年度実績と比較した営業利益、経常利益の増減分析となります。

滝グラフ左側が営業利益の増減分析となります。

為替は、第2四半期で円高に転じたものの、上期平均では前年同期比で円安。電力エネルギー価格は下落傾向であったため、為替差、価格差は増益要因となっております。数量差は銅加工事業、加工事業で販売が減少し減益要因。ヘッジ停止による為替・価格変動差は増益幅が縮小したものの増益要因となっております。その他差には、金属事業での実収効率の改善などが含まれております。

滝グラフ右側の営業外損益では、金銭債権債務に係る為替差損益がマイナスとなりました。

金銭債権債務は前年度末日と第2四半期の期末日の為替差により評価されますので、昨年度は円安基調で差益が発生しましたが、今回は円高基調となり、差損が発生しました。

これらの結果、経常利益は対前年で64億円増益の249億円となりました。

なお、ヘッジ停止による影響ですが、第1四半期は円安影響により、75億円の為替・価格変動差益と17億円のヘッジコスト減少がありました。上期トータルでは、第1四半期から第2四半期にかけて円高方向に推移したことで、ちょうど損益がプラスマイナスゼロという結果となりました。

営業外損益の為替差損益マイナス97億円のうち、ヘッジ停止に関連し売掛金回収時に生じた為替差を営業外損益マイナス19億円計上しております。

続いて8ページをご覧ください。

連結貸借対照表

				(単位：億円)			
項目	24年3月末 (a)	24年9月末 (b)	増減 (b - a)	項目	24年3月末 (a)	24年9月末 (b)	増減 (b - a)
流動資産	12,830	14,022	+1,191	借入金・社債・CP	6,031	6,614	+582
固定資産他	8,845	8,446	△399	その他負債	8,788	9,113	+325
資産 計	21,676	22,468	+792	負債 計	14,820	15,728	+908
自己資本比率	30 %	29 %	△1 %	自己資本	6,536	6,603	+67
ネットDEレシオ	0.7 倍	0.9 倍	+0.2 倍	非支配株主持分	319	136	△182
				純資産 計	6,856	6,740	△115
				負債純資産 計	21,676	22,468	+792

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

8

こちらは2024年9月末時点の連結バランスシートを示しています。

総資産は2兆2,468億円となり、2024年3月末から792億円増加しました。

今期は第1四半期に連結子会社であったPT. Smelting社が持分法適用会社となりました。この影響で固定資産を中心に総資産が約870億円減少しております。

流動資産は、棚卸資産の増加や、銅鉱石受入れに伴う前渡金の増加などがありました。

9月末時点の自己資本比率は29%、ネットDEレシオはネット有利子負債の増加などにより0.9倍となっております。

以上が連結決算での上期実績の概要となります。

続いて9ページをご覧ください。

25年3月期 通期業績予想

- 下期の自動車市場・半導体市場の需要回復は、当初想定に比べ緩やかとなることが予想され、当社の伸銅品、超硬製品は下期も低調に推移する見込み。
- 為替は今後の不透明感が強いが、足元水準で推移すると想定。
- それらに加えて、金属事業での実収効率改善などを考慮し、セグメント別の見直しは見直しているが、通期の連結業績予想・配当予想に変更なし。

損益計算書		前回 予想(a)	今回 予想(b)	増減 (b-a)	為替・金属価格		前回 予想(a)	今回 予想(b)	増減 (b-a)	
売上高	億円	19,500	19,500	-	ドル為替	円/\$	150	151	+1	
					ユーロ為替	円/€	160	163	+3	
営業利益	億円	410	410	-	銅価格	¢/lb	400	415	+15	
					金価格	\$/oz	2,000	2,353	+353	
経常利益	億円	630	630	-	パラジウム価格	\$/oz	1,100	1,036	△64	
親会社株主に帰属 する当期純利益	億円	450	450	-	感応度*1				下期 影響額	
一株配当	中間	円	50	50	-	為替	営業利益1円/\$円安	億円		+3.3
							営業利益1円/€円安	億円		+0.8
	期末	円	50	50	-	銅価格	営業利益10¢/lb	億円	a	+2.7
							営業外損益10¢/lb	億円	b	+5.7
						経常利益10¢/lb	億円	a+b	+8.5	

*1:感応度に在庫評価影響は含んでおりません。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

9

通期の連結業績予想についてです。

上期の実績及び自動車市場、半導体市場などの今後の需給動向を考慮した結果、通期の連結業績予想、配当予想は5月の公表値から変更しておりません。

一方で、セグメント別では数値の見直しを行っておりますので、次ページ以降でご説明いたします。

また、今回の見直しの前提としております為替、金属価格は右上にある通りです。ドル為替は下期を150円と想定し、年間では151円としております。

為替、銅価格の変動による業績影響は右下に感応度でお示ししております。

なお、為替の感応度にはヘッジ停止による為替・価格変動差影響を含んでおりません。

続いて10ページをご覧ください。

セグメント概況（金属事業）

- 上期実績は、為替が円安基調で推移し、為替差やヘッジ停止による為替・価格変動差での増益があったことに加えて、実収効率の改善、持分法投資損益の改善などにより経常利益は180億円（前年度実績+95億円の増益）となった。
- 通期予想は、実収効率の改善に加えて、硫酸手取りの良化、銅鉱山からの受取配当金の増加などにより経常利益は471億円（前回予想+101億円の増益）を見込む（通期でのヘッジ停止による影響は+16億円）。

項目	24年3月期 上期実績 (a)	25年3月期 上期実績 (b)	増減 (b-a)	前回予想 (c)	今回予想 (d)	増減 (d-c)	
売上高	億円	4,768	7,324	+2,556	13,537	14,294	+757
営業利益	億円	71	224	+152	165	287	+121
経常利益	億円	84	180	+95	370	471	+101

経常利益増減要因内訳

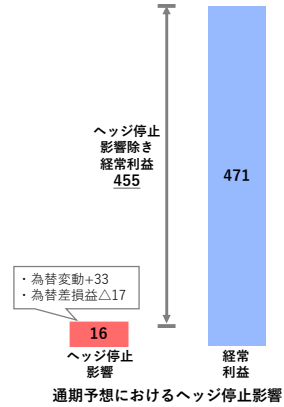
	上期実績 増減	通期見通し 増減
為替差	+24	+4
価格差*1	+2	+14
数量差	+2	△19
受取配当金	+0	+28
持分法損益	+24	△26
その他*2	+43	+100
経常利益増減	+95	+101

*1価格差の主な内訳

上期実績 増減	エネルギー価格差+10 パラジウム△2他
通期見通し 増減	硫酸手取り良化他

*2その他の主な内訳

上期実績 増減	実収効率改善+70、為替価格変動差+27 ヘッジコスト+26、為替差損益 △82他
通期見通し 増減	実収効率改善+84、為替価格変動差+33 為替差損益△24 (内、ヘッジ停止影響△17)他



こちらからは、セグメント別の概況についてご説明します。まず金属事業です。

上期実績は、昨年度から増収、増益となりました。

電気銅生産量は昨年度に対し増加しました。また為替が円安基調で推移しましたので、為替差やヘッジ停止による為替価格変動差でプラスとなり業績の追い風となりました。

これらに加え、銅マウンテン銅鉱山やマントベルデ銅鉱山の持分法投資損益の改善や、実収効率の改善、ヘッジコストの減少などにより増益となりました。

通期の業績見通しは、電気銅、金の販売量減少、持分法投資損益は操業コストの悪化などを織り込んでいます。

一方で、実収効率の改善効果に加え、硫酸手取りの良化、出資鉱山からの受取配当金の増加が見込まれることから、経常利益は前回予想から101億円増益の471億円を見込んでおります。

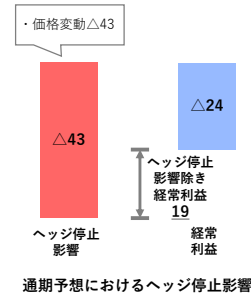
通期でのヘッジ停止による影響はプラス16億円を想定しています。一方で、昨年度はヘッジコストが約50億円発生していましたので、その分は増益効果となっています。

続いて11ページをご覧ください。

セグメント概況（銅加工事業）

- 上期実績は、為替の円安による増益、ヘッジコストの減少があったものの、銅分のヘッジ停止による為替・価格変動差での減益などにより経常利益は△34億円（前年度実績△31億円の減益）となった。
- 通期予想は、自動車市場、半導体市場の需要回復が当初想定に比べ緩やかとなることに加えて銅分のヘッジ停止による為替・価格変動差などにより経常利益は△24億円（前回予想△97億円の減益）を見込む。
- ヘッジ停止による影響（△43億円）を除いた通期の経常利益は19億円。

項目	24年3月期 上期実績 (a)	25年3月期 上期実績 (b)	増減 (b-a)	前回予想 (c)	今回予想 (d)	増減 (d-c)
売上高 億円	2,043	2,229	+185	5,149	4,579	△570
営業利益 億円	10	△14	△25	107	13	△93
経常利益 億円	△2	△34	△31	73	△24	△97



経常利益増減要因内訳

	上期実績 増減	通期見直し 増減
為替差	+2	+3
価格差*1	+2	+2
数量差	△3	△78
その他*2	△32	△24
経常利益増減	△31	△97

*1価格差の主な内訳

上期実績増減	エネルギー価格差+2 価格改定+3他
通期見直し増減	

*2その他の主な内訳

上期実績増減	為替価格変動差△42 ヘッジコスト+8他
通期見直し増減	為替価格変動差△43他

こちらは、銅加工事業です。

上期実績は、売上高は為替の円安と銅価格の上昇により増収となりました。伸銅品の販売量は市場での在庫調整局面が継続しており昨年度から減少しております。経常利益は、販売の減少に加え、銅分ヘッジの停止による為替価格変動差が主因となり減益となっています。

通期の業績見直しは、自動車市場の需要回復が当初想定に比べ緩やかとなる見直しです。そのため伸銅品の販売量を期初想定から18%減の121千tに修正しております。販売の減少に加えて、銅分のヘッジ停止による為替価格変動差も発生することなどにより経常利益は前回予想から97億円減益の△24億円の経常損失を見込んでおります。通期でのヘッジ停止による影響はマイナス43億円を想定しています。これは金属事業とヘッジを停止した時期が異なっており、第1四半期初めの円安基調のタイミングとなったため、為替による増益効果の取り込みが限定的となりました。ヘッジ停止影響を除く通期の経常利益は19億円となりますので、事業の実力値としては、経常黒字でした。

続いて12ページをご覧ください。

セグメント概況（電子材料事業）

- 上期実績は、半導体関連製品の一部販売に回復の兆しがみられたものの、シール製品が在庫調整局面となり、事業全体での販売は前年同期並み。棚卸資産の在庫評価損益などにより経常利益は16億円（前年度実績+9億円の増益）となった。
- 通期予想は、半導体向けの需要回復時期が想定から後ろ倒しとなり販売は減少する見込み。棚卸資産の在庫評価損益や発生経費の減少などにより経常利益は前回予想並みの37億円（前回予想△1億円の減益）を見込む。

項目	24年3月期 上期実績(a)	25年3月期 上期実績(b)	増減 (b-a)	前回予想(c)	今回予想(d)	増減 (d-c)
売上高 億円	388	388	△0	840	747	△92
営業利益 億円	0	9	+9	29	24	△5
経常利益 億円	6	16	+9	38	37	△1

経常利益増減要因内訳

	上期実績 増減	通期見通し 増減
為替差	+0	+1
価格差	△2	△3
数量差	△3	△15
受取配当金	+0	-
持分法損益	△0	+2
その他*1	+14	+14
経常利益増減	+9	△1

*1その他の主な内訳

上期実績 増減	棚卸資産評価損益+13他
通期見通し 増減	棚卸資産評価損益+3、減価償却費+4他

こちらは、電子材料事業です。

上期実績は、売上高は半導体関連製品の一部販売に回復の兆しがみられましたが、シール製品が在庫調整局面となり、事業全体での販売は前年同期並みとなりました。
利益については、昨年度に計上していた棚卸資産の在庫評価損が収益性の改善により戻入となったことなどから増益となっています。

通期の業績見通しは、当初は、事業全体の販売の本格的な回復局面を下期以降と見込んでいましたが、半導体向けの需要回復時期が想定から後ろ倒しとなり販売は減少する見込みです。
一方、棚卸資産の在庫評価損益や減価償却費の減少などにより経常利益は前回予想並みを見込んでいます。

続いて13ページをご覧ください。

セグメント概況（加工事業）

- 上期実績は、為替の円安や値上げ効果などがあったものの、販売においては自動車向けの需要が低調であったことに加えて、2Qでの急激な為替円高による金銭債権債務に係る為替差損の計上などにより経常利益は前期並みの63億円（前年度実績△0億円の減益）となった。
- 通期予想は、値上げ効果や発生コストの減少を見込むが、自動車向けの需要回復が当初想定より緩やかになる見込みなどにより経常利益は108億円（前回予想△31億円の減益）を見込む。

項目	24年3月期 上期実績(a)	25年3月期 上期実績(b)	増減 (b-a)	前回予想(c)	今回予想(d)	増減 (d-c)
売上高 億円	698	746	+48	1,944	1,528	△415
営業利益 億円	52	68	+16	143	111	△31
経常利益 億円	63	63	△0	140	108	△31

経常利益増減要因内訳

	上期実績 増減	通期見通し 増減
為替差	+23	+5
価格差*1	+10	+17
数量差	△10	△74
受取配当金	+0	-
その他*2	△23	+21
経常利益増減	△0	△31

*1価格差の主な内訳

上期実績 増減	値上げ効果+5他
通期見通し 増減	値上げ効果他

*2その他の主な内訳

上期実績 増減	為替差損益△15他
通期見通し 増減	リベート、販売費および一般管理費減他

こちらは、加工事業です。

上期実績は、国内自動車メーカーの生産減や海外主要エリアである欧州/北米/中国での製造業の停滞感が影響し低調に推移しましたが、為替水準が円安で推移したことや販売価格の値上げ効果などで売上高、営業利益は増加しました。

経常利益は、前年度末日から今期の第2四半期末日で為替レートが円高に転じたことで金銭債権債務に係る為替差損益が悪化したため昨年度並みとなりました。

通期の業績見通しは、当初期待していた販売の回復が見込めず減販となる見込みです。販売価格の値上げ効果や販売費および一般管理費等のコスト削減を見込んでおりますが、前回予想からは減収、減益となる108億の経常利益となる見通しです。

続いて14ページをご覧ください。

UBE三菱セメント社概況

■UBE三菱セメント社連結損益計算書 (単位:億円)					■UBE三菱セメント社諸元					
項目	24年3月期 上期実績	25年3月期 上期実績	25年3月期 通期予想	項目	24年3月期 上期実績	25年3月期 上期実績	25年3月期 通期予想			
売上高	国内事業	2,061	1,885	3,840 (4,100)	セメント (国内総需要) 万 t	1,739	1,634	3,300 (3,500)		
	海外事業	927	1,002	1,880 (1,950)	セメント (国内)販売数量 万 t	415	387	800 (850)		
	計	2,989	2,887	5,720 (6,050)	セメント (米国)販売数量 万st	93	84	170 (179)		
営業利益	国内事業	35	77	160 (150)	生コン (米国)販売数量 万cy	381	349	660 (704)		
	海外事業	180	199	300 (280)	一般炭価格 (参考指標) \$/t	154	138	144 (180)		
	計	215	277	460 (430)	ドル為替 円/\$	141	153	149 (145)		
経常利益	224	286	460 (420)	※上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。						
親会社株主に帰属する 純利益	130	155	220 (210)	(参考) 24年9月末 連結貸借対照表 (単位:億円)						
()は2024年5月14日に発表した予想					総資産	7,911	有利子負債	1,650	自己資本	3,734
■当社持分法投資損益					自己資本比率	47.2%	ネットD/Eレシオ	0.23倍		
持分法投資損益	67	72	99 (96)							
<ul style="list-style-type: none"> 国内事業：(上期) 売上高は、環境エネルギー事業における販売数量減少や石炭市況下落による影響が大きく減収となったが、営業利益は、前年度実施のセメント値上や熱エネルギー価格低下の効果によりセメント事業の収益性が改善し増益となった。 (通期) 下期は上期と同様の傾向で推移する見通しにあり、通期でも減収増益を見込む。 海外事業：(上期) 米国事業はセメント・生コンの販売数量が減少したものの、前年度実施の値上効果や為替影響が寄与し増収増益。豪州石炭事業は販売価格の下落等により減収減益、海外事業全体では増収増益となった。 (通期) 米国事業の下期は、第4四半期で悪天候影響を受けた前年を上回る販売数量を見込むも、コスト上昇等の影響により増収減益。豪州石炭事業の下期も増収減益となる見通しにあり、海外事業全体の通期営業利益は前年並みを見込む。 										

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

14

こちらは、UBE三菱セメント社です。

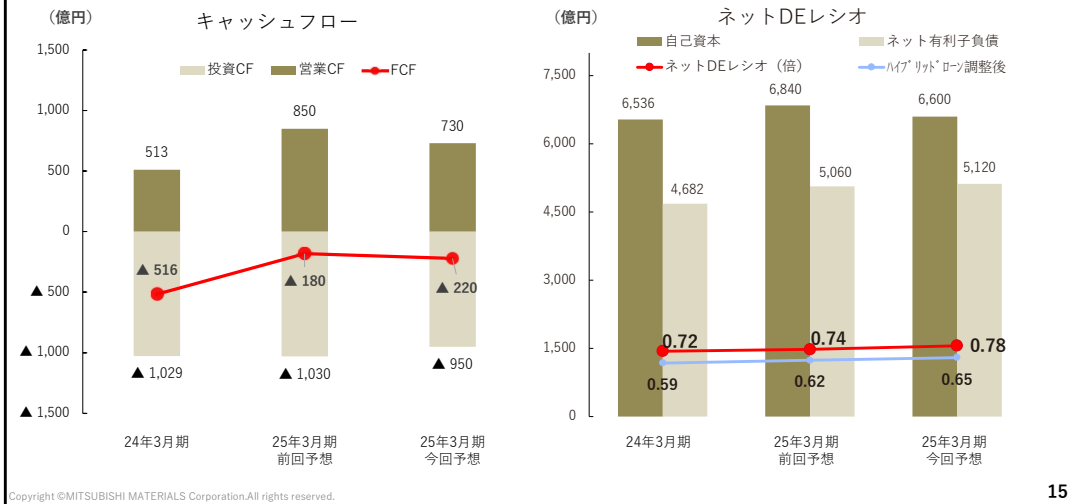
国内事業は、セメント、電力の販売数量減や、石炭市況の下落がありましたが、セメント値上効果や熱エネルギー価格の低下などによりセメント事業の収益性が改善し、前期比で増益となりました。下期も、上期同様の傾向が続くと見込んでおり、通期の業績予想は、昨年度実績に比べ減収増益となる見通しです。

海外事業は、米国でのセメント、生コン販売数量は前期比で減少しておりますが、値上効果や為替影響により増収、増益となりました。下期は、悪天候影響を受けた昨年度に比べ販売数量は増加する見通しですが、コスト上昇を見込んでおります。通期の業績予想は、昨年度実績並みの営業利益獲得を見込んでおります。

続いて15ページをご覧ください。

キャッシュフロー・ネットDEレシオ

- 上期の実績、下期の需給動向等を考慮した結果、販売の減少などによりキャッシュインが減少する見通し。計画していた投資案件の先送りや内容の見直しなどによりキャッシュアウトの圧縮を図ることでFCFは、△220億円（前回予想△40億円）を見込む。
- ネットDEレシオは、0.78倍となる見込み。



15

こちらは、キャッシュフロー・ネットDEレシオです。

キャッシュフローについては、販売の減少などによりキャッシュインが減少する見通しです。計画していた投資案件の先送りや内容の見直しなどによりキャッシュアウトの圧縮を図りますが、フリーキャッシュフローは、前回予想からマイナス40億円のマイナス220億円となります。ネットDEレシオについては、ネット有利子負債の増加などにより0.78倍となる見込みです。

参考情報

セグメント別増減内訳（上期実績前年同期対比）

（単位：億円）

項目	24年3月期 上期実績(a)			25年3月期 上期実績(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
金属	4,768	71	84	7,324	224	180	+2,556	+152	+95
高機能製品 *1	2,429	8	1	2,611	△10	△23	+182	△18	△24
銅加工	2,043	10	△2	2,229	△14	△34	+185	△25	△31
電子材料	388	0	6	388	9	16	△0	+9	+9
加工	698	52	63	746	68	63	+48	+16	△0
再生可能 エネルギー	22	2	3	45	16	18	+22	+14	+15
その他	725	15	82	727	21	89	+2	+6	+7
調整額	△1,482	△31	△51	△1,559	△45	△79	△77	△14	△28
合計	7,161	119	184	9,895	275	249	+2,733	+156	+64

*1.高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

セグメント別増減内訳（通期予想前回予想対比）

（単位：億円）

項目	前回予想(a)			今回予想(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
金属	13,537	165	370	14,294	287	471	+757	+121	+101
高機能製品 *1	5,975	130	104	5,314	29	5	△661	△100	△99
銅加工	5,149	107	73	4,579	13	△24	△570	△93	△97
電子材料	840	29	38	747	24	37	△92	△5	△1
加工	1,944	143	140	1,528	111	108	△415	△31	△31
再生可能 エネルギー	89	23	24	86	24	26	△2	+0	+2
その他	1,523	29	113	1,656	41	154	+133	+12	+41
調整額	△3,570	△81	△123	△3,381	△84	△136	+189	△2	△13
合計	19,500	410	630	19,500	410	630	-	-	-

*1.高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

前年実績対比（セグメント別要因内訳）

（単位：億円）

項目	24年3月期 上期実績 (a)	25年3月期 上期実績 (b)	増減 (b - a)	為替差	価格差	数量差	受取 配当金	持分法 損益	その他
金属	売上高	4,768	7,324	+2,556	+505	+960	+1,091	-	-
	営業利益	71	224	+152	+24	+2	+2	-	+124
	経常利益	84	180	+95	+24	+2	+2	+0	+24
高機能製品 * 1	売上高	2,429	2,611	+182	+195	+141	△154	-	-
	営業利益	8	△10	△18	+3	+1	△6	-	△16
	経常利益	1	△23	△24	+3	+1	△6	△0	△22
銅加工	売上高	2,043	2,229	+185	+189	+144	△148	-	-
	営業利益	10	△14	△25	+2	+2	△3	-	△26
	経常利益	△2	△34	△31	+2	+2	△3	△0	△32
電子材料	売上高	388	388	△0	+6	△2	△4	-	-
	営業利益	0	9	+9	+0	△2	△3	-	+14
	経常利益	6	16	+9	+0	△2	△3	+0	△0
加工	売上高	698	746	+48	+43	+18	△13	-	-
	営業利益	52	68	+16	+23	+10	△10	-	△7
	経常利益	63	63	△0	+23	+10	△10	+0	△23
再生可能 エネルギー	売上高	22	45	+22	-	△0	△0	-	+22
	営業利益	2	16	+14	-	△0	+0	-	+14
	経常利益	3	18	+15	-	△0	+0	△0	+2
その他	売上高	725	727	+2	+5	-	△3	-	-
	営業利益	15	21	+6	+0	-	+1	-	+5
	経常利益	82	89	+7	+0	-	+1	△0	+4
調整額	売上高	△1,482	△1,559	△77	△86	△111	+120	-	-
	営業利益	△31	△45	△14	-	-	+0	-	△14
	経常利益	△51	△79	△28	-	-	+0	-	△28
合計	売上高	7,161	9,895	+2,733	+664	+1,009	+1,038	-	+22
	営業利益	119	275	+156	+51	+12	△12	-	+104
	経常利益	184	249	+64	+51	+12	△12	+0	+31

* 1.高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

セグメント別四半期推移

(単位：億円)

項目		24年3月期							25年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期
金属	売上高	2,409	2,358	4,768	2,395	3,216	5,611	10,380	3,900	3,424	7,324	6,970	14,294
	営業利益	16	54	71	△3	30	27	98	88	136	224	62	287
	経常利益	26	58	84	198	27	225	310	121	58	180	290	471
高機能製品 *1	売上高	1,205	1,224	2,429	1,253	1,204	2,457	4,887	1,323	1,288	2,611	2,702	5,314
	営業利益	4	3	8	16	16	32	40	23	△33	△10	40	29
	経常利益	2	△0	1	8	8	16	18	20	△43	△23	28	5
銅加工	売上高	1,016	1,027	2,043	1,059	999	2,058	4,102	1,130	1,098	2,229	2,349	4,579
	営業利益	5	5	10	8	7	15	26	17	△32	△14	27	13
	経常利益	△0	△1	△2	△2	△1	△3	△5	8	△42	△34	9	△24
電子材料	売上高	189	199	388	201	208	410	799	198	189	388	359	747
	営業利益	1	△1	0	7	9	17	17	7	1	9	15	24
	経常利益	4	2	6	9	11	21	28	14	1	16	21	37
加工	売上高	350	347	698	349	352	702	1,400	381	364	746	782	1,528
	営業利益	32	19	52	29	25	55	108	29	38	68	43	111
	経常利益	41	22	63	27	31	59	122	34	28	63	45	108
再生可能 エネルギー	売上高	12	10	22	12	11	23	46	23	21	45	41	86
	営業利益	3	△0	2	3	2	5	8	9	7	16	7	24
	経常利益	3	△0	3	2	3	5	8	12	5	18	8	26
その他	売上高	334	390	725	417	463	880	1,606	350	376	727	929	1,656
	営業利益	△1	16	15	16	45	62	78	6	15	21	19	41
	経常利益	20	62	82	51	87	138	221	40	49	89	65	154
調整額	売上高	△686	△795	△1,482	△774	△657	△1,431	△2,913	△842	△717	△1,559	△1,821	△3,381
	営業利益	△18	△12	△31	△27	△42	△70	△101	△28	△16	△45	△38	△84
	経常利益	△24	△27	△51	△35	△53	△88	△140	△43	△35	△79	△57	△136
合計	売上高	3,626	3,535	7,161	3,653	4,590	8,244	15,406	5,137	4,758	9,895	9,604	19,500
	営業利益	37	81	119	34	78	113	232	128	147	275	134	410
	経常利益	69	114	184	252	104	356	541	186	62	249	380	630

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを合せて記載しております。

諸元

主要製品の生産・販売動向

項目	24年3月期							25年3月期					
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期	
電気銅*1	生産量 千 t	96	109	204	95	113	208	413	112	102	214	197	412
	販売量 千 t	86	99	186	92	111	203	388	102	93	195	187	383
金	生産量 t	9	6	14	4	8	12	26	9	9	19	21	40
	販売量 t	8	6	14	4	8	12	26	9	9	19	21	40
銀	生産量 t	66	61	126	44	65	109	235	81	75	156	157	313
	販売量 t	65	61	126	39	71	110	236	82	74	156	157	313
伸銅品	販売量 千 t	29	31	61	32	31	63	124	29	29	58	63	121

*1：電気銅生産量は受託分を含んでおります。

鉱山配当額の推移

項目	24年3月期							25年3月期				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期
Los Pelambres 配当額 億円	-	-	-	208	1	210	210	-	-	-	149	149
Escondida 配当額 億円	6	3	9	9	2	12	21	8	-	8	34	42
鉱山配当額計 配当額 億円	6	3	9	217	4	222	231	8	-	8	183	192

金属価格・為替の推移

項目	24年3月期							25年3月期				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期
ドル為替レート 円/\$	137	145	141	148	149	148	145	156	149	153	150	151
ユーロ為替レート 円/€	149	157	153	159	161	160	157	168	164	166	160	163
銅価格(LME) €/lb	385	379	382	371	383	377	379	442	417	430	400	415
金価格 \$/oz	1,978	1,929	1,954	1,976	2,072	2,024	1,989	2,338	2,476	2,407	2,300	2,353
パラジウム価格 \$/oz	1,449	1,251	1,350	1,085	978	1,031	1,191	972	970	971	1,100	1,036

持分法投資損益内訳

(単位：億円)

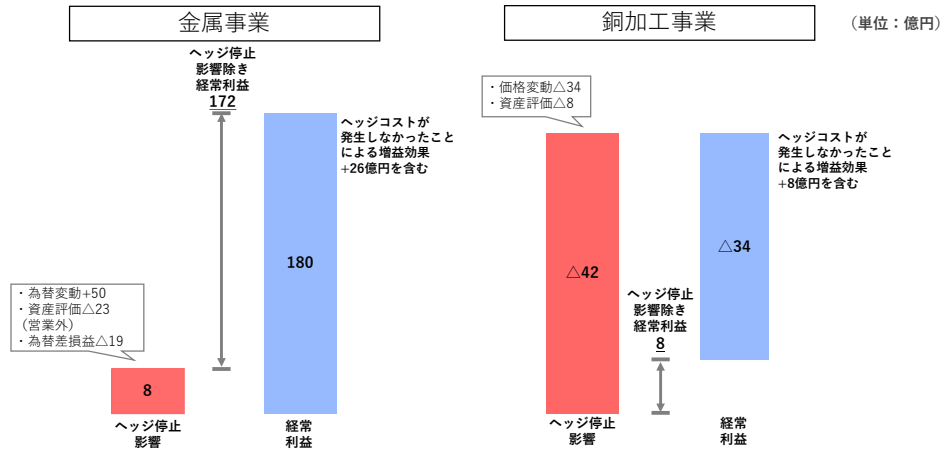
会社名	当社 持分	24年3月期							25年3月期				
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	下期	通期
Copper Mountain Mine(BC)Ltd.	25%	△4	△17	△22	5	△5	0	△22	0	△6	△6	△11	△17
Mantoverde S.A.	30%	△12	2	△10	△2	△10	△13	△23	△2	△4	△6	15	9
PT.Smelting*1	34%	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	7	12
関西リサイクルシステムズ	41.4%	1	1	2	1	1	2	5	1	1	3	2	5
フジクラダイヤケーブル*2	22%	2	1	4	2	2	5	9	3	0	4	4	8
湯沢地熱	30%	0	0	0	2	1	4	4	3	△0	3	4	7
UBE三菱セメント	50%	20	47	67	29	41	70	138	36	36	72	26	99
その他		1	1	2	1	△2	△0	2	2	△0	1	2	3
合計		7	37	45	41	28	70	115	45	31	76	52	128

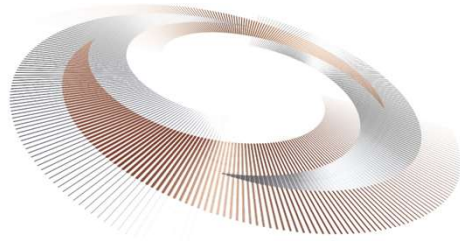
*1:第三者割当増資の完了に伴って持分比率が低下したため、25年3月期第2四半期より持分法適用関連会社として損益取り込み

*2:24年3月期当社持分22.5%、25年3月期当社持分22%

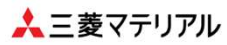
25年3月期上期実績（ヘッジ停止関連概要）

- 金属事業：経常利益180億円に対して、ヘッジを停止したことによる収益影響は+8億円（営業利益影響+27億円、経常利益影響△19億円）であった。ヘッジ停止影響を除いた経常利益は172億円となった。ヘッジコストが発生しなかったことで上期で+26億円の増益効果もあった。
- 銅加工事業：経常利益△34億円に対して、ヘッジを停止したことによる収益影響は△42億円（営業利益影響として）であった。ヘッジ停止影響を除いた経常利益は8億円と黒字を確保した。ヘッジコストが発生しなかったことで上期で+8億円の増益効果もあった。
- 上期全体での金属事業と銅加工事業を合わせたヘッジ停止による収益影響は、為替・価格変動などで△34億円、ヘッジコストが発生しなかったことで+34億円の増益効果となり、合計では、±0億円となった。





人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

注意事項

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、将来の計画等は、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものであり、実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料の計画等と大きく異なる可能性があります。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

お問合せ先

三菱マテリアル株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IRグループ

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

ml-mmcir@mmc.co.jp

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>